

剣道プロジェクト

ーレッツチャレンジ昇段審査ー

筑波大学附属駒場中・高等学校 保健体育科
登坂 太樹・入江 友生・加藤 勇之助
合田 浩二・中西 健一

剣道プロジェクト

ーレッツチャレンジ昇段審査ー

筑波大学附属駒場中・高等学校 保健体育科

登坂 太樹・入江 友生・加藤 勇之助
合田 浩二・中西 健一郎

要約

全国的に中高一貫校が新規設立されるなか、各教科において6年を通した一貫した教育はどのようなものがあるのか模索が続いている。本校では従来、行っていた剣道の授業を拡充・発展させ中学3年次に1級審査・高1時に初段審査を目指す。今年度から5ヶ年計画で、本校の体育授業「剣道」を履修していくことで、卒業するまでに初段審査が受けられる環境を整えていく。今年度は初年度にあたり、今後の予定について、今年度ここまで実施している段階で生徒の様子などについて報告していきたい。

キーワード：5ヶ年計画 段級審査

1 はじめに

「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」これは昭和50年3月に全日本剣道連盟が制定した剣道の理念である。剣道は古来より剣術、刀法、撃剣などと称されてきたものを大正元年(1912)には大日本武徳會が制定した「大日本帝国剣道形」の中で使用され始め全国的な名称の定着となった。(全日本剣道連盟見解より)しかし、第2次世界大戦後、剣道は一時禁止処分となったが、昭和27年(1952)独立回復後、全日本剣道連盟が結成されるとともに甦った。学校においてもその翌年に正課として再び採用されることになり今日に至っている。

「剣道は単純な面・小手・胴・突きの練習から始まる。そして複雑多岐にわたるいろいろな技の学習へと進んでいく。そのことで稽古の楽しみがふくらんでいく。それは学習内容が豊富となり、いろいろな変化を生み出し、剣道の面白さを広げていく。」これは(※1)の中の1文である。

剣道は基本的な技を覚えそれを試合(稽古)中で実践するためにはそれなりの年数が必要である。その過程を経て始めて剣道を学ぶ楽しさや意味が生まれてくる。では本校では中高一貫という特色をどのように生かせることができるのだろうか検討した。

2 「6ヶ年一貫プログラム」の取り組み

2.1 剣道の目標

表1 剣道における各学年の到達目標

学年	到達目標
中1, 2	大きく踏み込んで基本打突ができる。
中3・高1	打突方法、打突機会を選択しながら攻防することができる。また、審判方法、試合運営の方法について理解し実践できる。
高2	「自分の得意技作り」に興味を持たせ試合稽古を増やし、技の時機や相手に対する見極めができるようになる。 また団体戦ではポジションの特性や流れを理解しながらオーダー決めができるようになる。

表1はこれまで本校が「6 ヶ年一貫カリキュラムの構築」と題して取り組んできたなかの剣道の目標である。

本年度から私が授業を担当した限り生徒は剣道に対して非常に意欲的であり一生懸命に自己の技の追求に努めている姿が見受けられた。また昨年本校 55 期生高校2年生の時、剣道の授業を担当した加藤が受けた印象では球技が苦手でも剣道が好きな生徒が多くいるという話も聞き、さらに本校の生徒は礼を重んじる姿勢が非常に強いということであった。

2.2 授業用品の工夫



図1 面ピット、小手、垂ネーム

図1は現在本校生徒中学・高校の入学時に購入し使用している授業用剣道具用品である。その他の面、胴、垂、竹刀は学校で準備している。

2.2.1 面ピット

図1一番左の面ピットは私が本校に赴任してから始めて知りえたが、非常に有益なものであると感じた。剣道の授業では以前より、前の時間ほかの生徒が使っていたものを自分が使うことの抵抗感や、防具などから発する独特な匂いがやる気の低下につながっていた。図1の用品を使うことによりそれらの問題が解消され授業に対する集中力が高まっていると感じた。

以下に使用方法を紹介する。

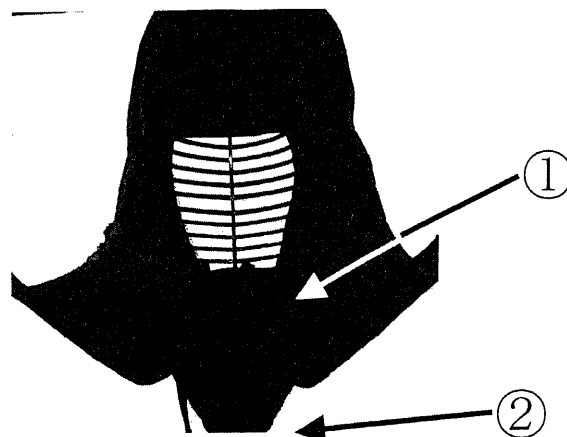


図2 通常の内輪と用心垂

図2は通常的面であり、顎をのせる内輪①と用心垂②は一体となっている。

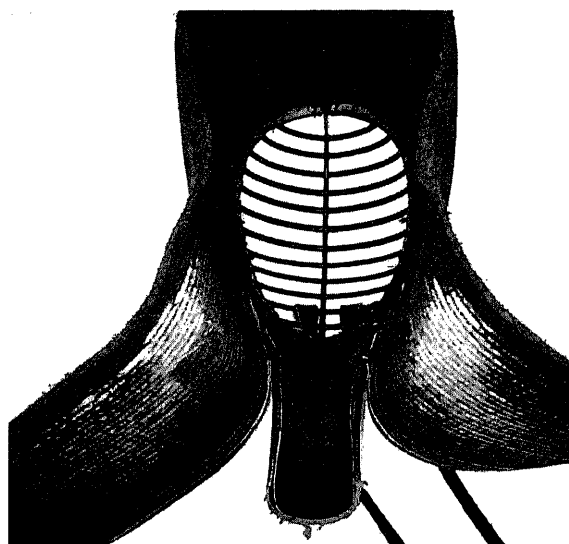


図3 本校の面

図3は本校で使用している面である。通常的面についているはずの内輪と用心垂は取り外してあり、面ピットを下図(図4)のようにかぶり面をつける。このことによって面の使い回しができ、なおかつ衛生面でも配慮の取れた対応ができるのである。

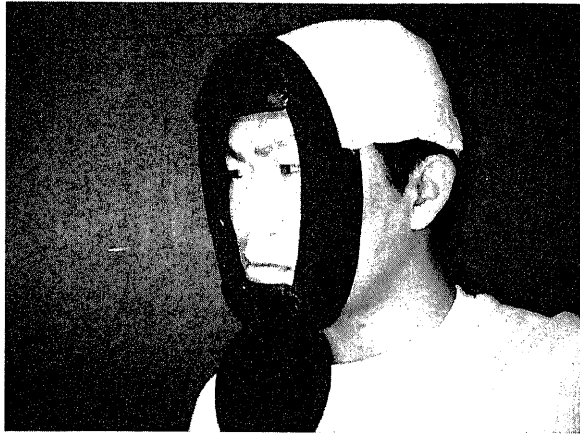


図4 面ピット装着時

2.2.1 垂ネーム

図1中央上の垂ネームは剣道経験者以外の生徒全員に購入を勧めている。これをつけることにより、剣道に対する意欲も高まり、垂そのものは前述のように学校から貸し出しのものであるが自らのものとして剣道ができるのである。

2.2.2 小手

小手も剣道を嫌いになってしまう原因であり、前の時間他の人が使ったものに手を通すのにはかなりの勇気がある。個人使用にすることにより、こういった問題が解決される。

2.2.3 費用その他

これら剣道用品の費用は全部で8640円である。しかしこれら決して安くはない費用をかけても、剣道としてどのような実績をあげているのか疑問に思う。また生徒たちの剣道用品管理状況を見ていると概ね雑である。剣道プロジェクトではこのような用品の維持・管理や見合った成果というところに焦点を充てて取り組んでいきたい。

3 剣道プロジェクト

3.1 目指すところ

これまで紹介してきたように本校では6ヵ年という長い期間の中で授業計画が立てられ実施されてきた。では今後の取り組みとしてどのようなものがあるか検討してみた。

そこで浮かび上がってきたのが全日本剣道連盟制定の段級審査への挑戦である。段級審査について香田は「剣道の段級審査とは実技試験で剣道技能の発達度を日本剣道形の審査でその修得度を、さらに学科試験で剣道理論の理解度などを総合的に審査し、受審者にふさわしい段位を授与する全日本剣道連盟の制度」(※2)であると述べている。また村嶋は段級審査について「普段修行していることを、熟練した第三者が『今の修行の段階はこの地点だ』と評価してくれるものです。」(※3)と述べている。本校の生徒がこの段級審査に挑戦することになれば日ごろの学習成果を試す良い機会であり、学習意欲も高まるのではないかと考えた。同じ村嶋は「目的が明確なほどさらに正しく修得でき、意欲も違ってきます。そこで目標の一つに『段級審査』を考えることもよいことです。」と述べている。身体的・精神的に飛躍的に成長する5年間に部活動としてではなく授業として取り組むだけでも生徒たちの剣道の成長は相当なものがある。そこで段級審査が筑駒で5年間剣道の授業を受け、目に見えた形として残すことができれば生徒の自信につながるだろうと考えた。また高校卒業後、剣道を再開したいと考えた場合に段・級を持っていることで、次の段階に挑戦するということがきっかけになればと考えた。

初段を受けるためにはその下の1級を取得していなければならない、また中学2年生以上という規定がある。1級、初段審査とも年3回(各都道府県で異なる場合がある)受審機会がある。本校は東京都世田谷区に所在しているため、世田谷区剣道連盟が主催する級審査に臨むことになる。そこで行われる審査会の内容は「切り返し、面打ち、試合的な地稽古2回、剣道形3本目まで」(平成19年1月12日発表剣道1級～5級審査会のご案内より)であり、剣道形を除いては授業で取り扱ってきたものであり、十分対応できるものであると考えた。

4 平成 18 年度の取り組み

4.1 中学 1 年生

表 2 平成 18 年度 中学 1 年生の取り組み

2 学期	オリエンテーション、礼法、刀法、素振り、 発声、足さばき、打撃稽古、(面を着けない での)繰り返し
3 学期	防具の名称説明及び着け方、片付け方、 面打ち、繰り返し

表 2 は今年度の中学 1 年生の取り組みである。授業は第 2・3 学期と実施している。大多数の生徒が剣道をするのが初めてであり興味を持って授業に取り組んだ。中には本格的にやってみたくと剣道部への入部も考える生徒も出てきた。2 学期は (面を着けないでの) 繰り返し、(3 学期は面を着けての) 繰り返し、面打ち、小手打ちを評価とする方針である。

以下、中学 1 年生の授業の様子である。

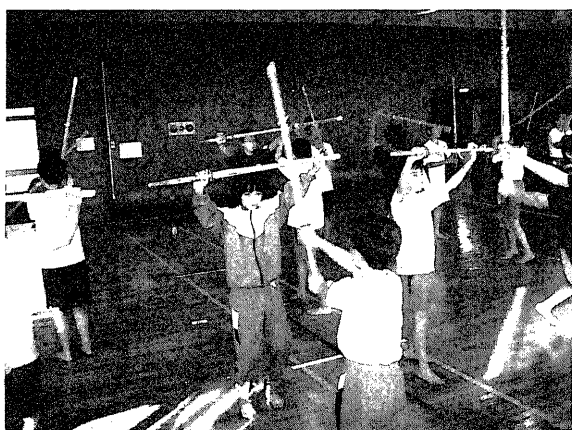


図 5 打撃稽古の様子



図 7 静坐の様子

4.2 中学 3 年生

表 3 平成 18 年度 中学 3 年生の取り組み

1 学期	礼法、防具の着け方、片付け方の確認、 素振り、発声、正面振り、斜め振り、 繰り返し
2 学期	礼法、基本打(面打ち、小手打ち、胴打ち)、 試合法、審判法、「団体戦

表 3 は今年度の中学 3 年生の取り組みである。この学年はすでに前学年、前々学年と授業で剣道に取り組んでいるということもあり、前半は既習したものを確認するという流れであった。2 学期の後半になって試合法、審判法を取り入れ、自分たちの目で『有効打突』を見分けられるようにしようと試みた。試合では 5 人グループを作り各グループ 2 審制で試合を行っていった。教師側からは審判の立ち位置、旗の持ち方、挙げ方、宣告の仕方を学習した。剣道においては審判がポイントを作り上げていくので、正しい判断と的確さが求められる。(※ 4) 第 1 条(本規則の目的)では、審判について「剣の理法を全うしつつ、公明正大に試合をし、適正公正に審判する」とある、このことから授業の審判法においても上の理念に近づける必要があるのではないかと考え審判法は重点的に学習した。

以下は中学 3 年生の授業の様子である。

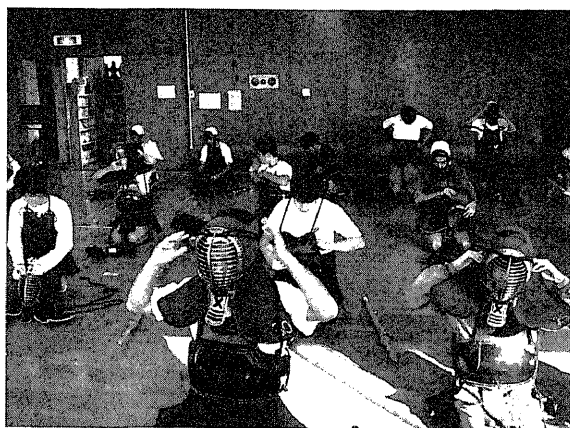


図8 面つけの様子



図9 技を教えあう二人



図10 1審制で試合を行うグループ

4.3 高校1年生

表4 平成18年度 高校1年生の取り組み

1学期	オリエンテーション、礼法、刀法、素振り、発声、足さばき、打撃稽古、(面を着けないでの)繰り返し
2学期	防具の名称説明及び着け方、片付け方、面打ち、基本打ち(面打ち、小手打ち、胴打ち)、試合法、審判法、団体戦
3学期	個人リーグの開催、突き技

表4は高校1年生の今年度の取り組みである。この学年は中学から連絡してくる生徒と高校から入学してくる生徒がおり、その二つの生徒たちの差は明らかであり、中学で全く武道授業経験がない生徒もおり生徒が満足いく授業ができたがどうか不安である。中学で学習したことを1、2学期で復習するという授業展開を行った。それに加え試合法や審判法も中学3年生同様に徹底的に実施した。生徒たちは意欲的に取り組み、自分たちの目と頭で「一本」を判断する難しさと楽しさを味わっていたようである。

以下は高校1年生の授業風景である。



図11 2審制で試合を行う様子
(紅白の審判旗を使用)

4.4 中学3年生 選択科目

『レッツトライ昇段審査』

テーマ学習『レッツトライ昇段審査』と称して中学3年生に月2回実施した。この科目は題名同様、段審査に挑戦をするという内容の授業であった。前述のように初段を受審するためには「1級」を取得しなくてはならず、本年度はその「1級」を取得することを目指した。

平成19年2月25日（日）に日本大学櫻丘高等学校体育館で世田谷区剣道連盟主催の級審査が行われ16名中15名が受け（1名は欠席）全員合格を果たした。来年度行われる、段審査に向けて今後も努力していきたい。

4.4.1 科目内容

この授業では普段の授業ではまだ実施していない「日本剣道形」を行った。それは1級、初段審査に課されているというのが一つと、形は（※5）の中で「日本剣道形の修練を通じて、剣道の原点である剣の理法を学び、剣道の正しい普及発展に役立てることを目的とした。」とあるようにこの形を稽古することにより剣道の実技にも通じる体さばき・刀法・呼吸法などを体得することができる効果があるとされている。生徒たちも普段の授業では使わない「木刀」を用いることにより積極的に稽古に取り組んでいた。

因みに1級では日本剣道形10本中の3本目までを試験課題として課している。

以下は学習風景である。



図12 胴着・袴をつけての授業風景

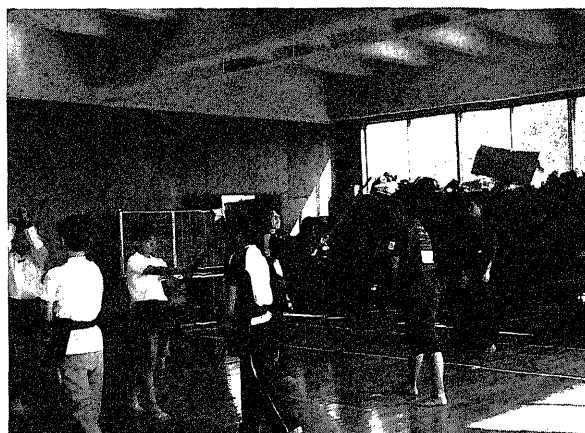


図13 日本剣道形の稽古風景

4.4.2 関東学生剣道大会への観戦

剣道に対する興味や意欲を導くため、全日本級の剣道大会の観戦を企画した。日程の都合上「第55回関東学生剣道選手権」を観戦することにした。冠が関東と付いているものの、剣道の強豪校の選手はその多くが関東の大学に進学するため、試合は全国レベルのものが展開された。生徒たちははじめての剣道の試合に興奮気味に観ていた。

4.5 剣道場の環境整備

本年度、道場の環境整備にも努めた。図14は剣道用のホワイトボードである。これは試合稽古などに使用するが、従来黒板を使用しておりチョークの粉が床に落ち思わぬ事故の原因になるのではないかと考えての措置である。これは対戦表が書き込まれているものなので、試合法を説明するときに非常に有益なものであった。

図15は太鼓である。直接、授業には関係のないものであるが、授業始めや稽古中の区切りをつけるには非常に重みのあるものとなった。

図16は時間表示用タイマーである。これを使うことにより一斉に試合稽古を行うときに教員が時計を計らなくてすむようになった。

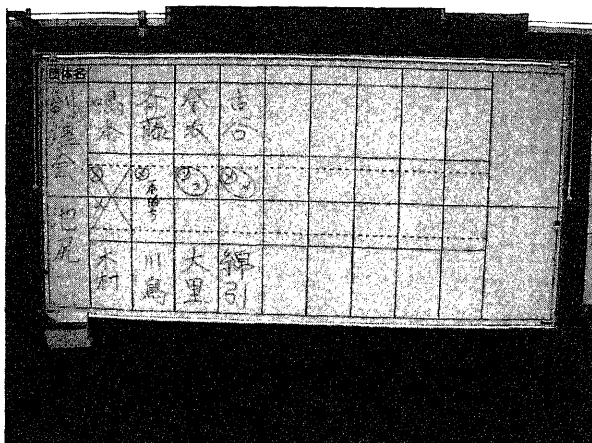


図 1 4 剣道用対戦表ホワイトボード

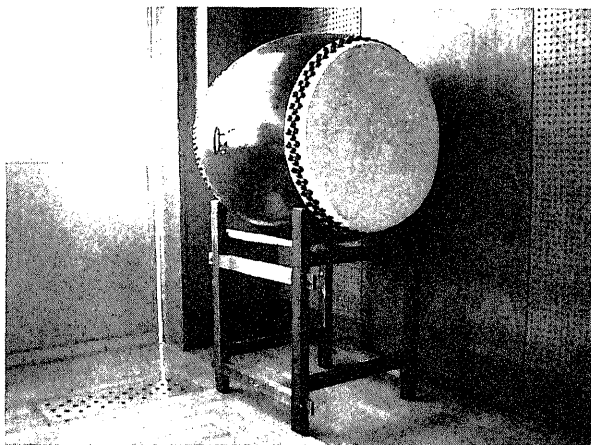


図 1 5 太鼓

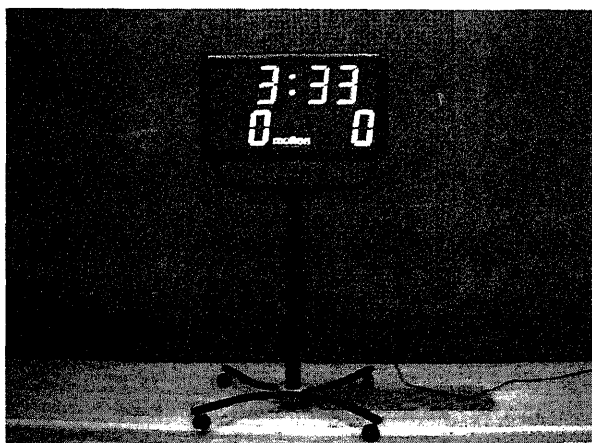


図 1 6 計時用タイマー

5. 今後の展望

今後の展開として、中学2年は授業としては組まれていないが、この学年の特別授業期間中に全国的な大会の観戦を入れていきたいと考えている。本年度はテーマ学習のみで行っていたものを、学年行事として入れていきえればと思う。また段級を受審することはやはりテーマ学習の選択者だけであったが、今後はこれを拡大し中3の中から希望者を募り臨みたいと考えている。これを行うには胴着・袴の絶対数が足りないので次年度はこれを改善していきたい。

【参考文献】

- (※1) 岡村忠典 (2006) 『百歳までの剣道—生涯剣道はいがっぺよ』 体育とスポーツ出版社
- (※2) 香田郡秀 (2004) 『剣道段級審査』 成美堂出版
- (※3) 村嶋恒徳 (2003) 『みんなの剣道』 学習研究社
- (※4) 財団法人 全日本剣道連盟『剣道試合・審判規則、剣道試合・審判催促』(1999)
- (※5) 財団法人 全日本剣道連盟『剣道講習会資料「日本剣道形」作成の大綱』